

標準化の取組は 中小企業の皆様も活用可能です！

標準化に取り組むメリット

標準化とは、ある製品やサービス等に対して、関係する利害関係者との間で任意の「決め事」を開発し、普及させる取組です。
 例えば、自社の製品・サービスの質の高さを適切に評価できる試験方法をJISとして標準化することができれば、業界全体で同じJIS（モノサシ）でその製品等の質を評価できるようになるため、自社の優位性をアピールしやすくなります。
 経済産業省では、「パートナー機関」として登録されている全国の自治体・産業振興機関、地域金融機関、大学・公的研究機関等を通じて、標準化に関するお悩みをご相談いただける制度の他、中堅・中小企業の皆様が規格策定を行う際にお使いいただける様々な支援策をご用意しておりますので、まずはお近くのパートナー機関や地方経済産業局にご相談ください。

お近くの
パートナー機関は
こちらから



QR
(ご支給予定)

様々なルートによる規格策定

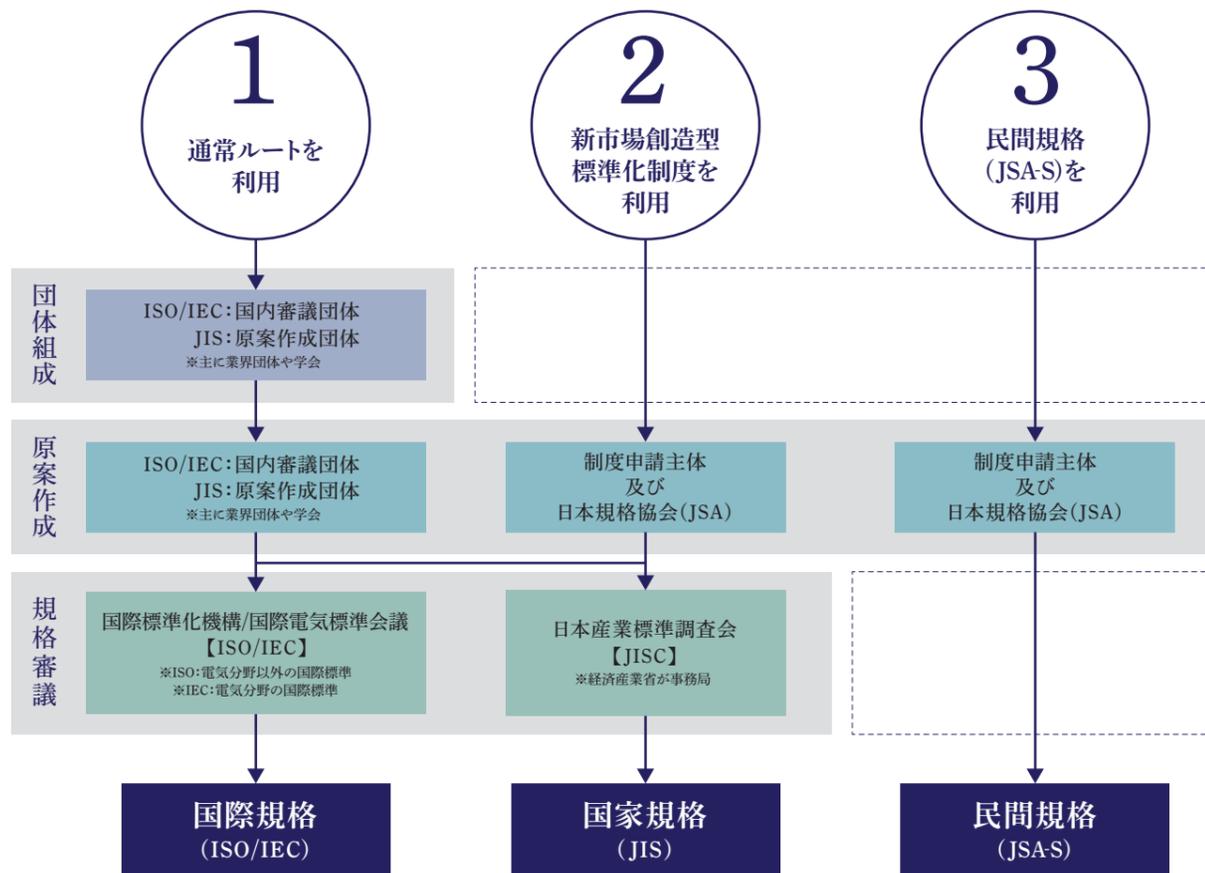
規格を制定するにあたっては、当該規格を担当する（し得る）業界団体等を通じて規格原案作成や利害関係者の調整を行い、規格の種類（ISO/IEC/JIS）に対応した機関へ申請することが必要です。
 規格を担当する意思がある業界団体がない場合や、新技術であることから該当する業界団体がない場合等には、新規の原案作成委員会等の立ち上げを支援する、「新市場創造型標準化制度」が利用可能です。また、より迅速な手段として、「民間規格」を利用することも可能です。

新市場創造型
標準化制度の概要は
こちらから



QR
(ご支給予定)

■ 各ルートにおける規格制定の流れ



※日本規格協会 (JSA) が制定している民間規格。民間規格を原案として利害関係者の了解をとり、ISO/IEC/JISC等に申請することも可能。

中小企業による標準化事例 (新市場創造型標準化制度活用事例)

中小企業取組事例 01

株式会社 悠心
[所在地] 新潟県

性能の見える化による新市場創造・新規顧客開拓

株式会社悠心は、特許取得している注ぎ口の逆止弁の効果により、開封後も内容物の鮮度を保てる液体容器を開発しました。
 自社技術力の可視化を目的に、この容器に含まれる内容物の酸化度合いを客観的に証明するための測定方法や試験条件、逆止機能による酸化防止性の表示方法等を標準化した結果、本容器の性能への信頼性が向上し、ベンチャーキャピタルからの出資を獲得する等、ビジネスチャンス拡大につながる結果となりました。

point

JIS化により自社技術が公知化するデメリットを鑑み、注ぎ口の逆止弁の構造・材料等は特許化するというオープン&クローズ戦略に取り組むことで自社の利益を確保。



中小企業取組事例 02

株式会社 mil-kin
[所在地] 東京都

性能の見える化による信頼性向上・取引先拡大

株式会社mil-kinは、食品加工工場や調理現場で、汚れや菌を簡易・即時に確認できる携帯形微生物観察器を開発しました。
 本製品の性能や品質の信頼を得るために、解像力や堅牢性の基準を標準化することで、本製品を客観的に評価できる環境が整備され、市場が拡大しました。現在では2,000以上の企業・団体に導入されているほか、JIS規格の信頼性により日本を含めて31か国以上の国で販売を行っています。

point

顧客からの信頼が得られるように「菌が良く見えること (携帯形微生物観察器の解像力や視野径)」と「顧客の利用場面 (耐衝撃性、耐高温・高湿性)」の2点を強く意識した標準規格を開発し、自社製品の信頼性を獲得。ビジネス拡大の好循環が生まれることに。



中小企業取組事例 03

株式会社 ワイピーシステム
[所在地] 埼玉県

標準化による顧客の信頼獲得・粗悪品排除

株式会社ワイピーシステムは、交通事故や水害などで自動車に閉じ込められた際に確実にガラス破碎・シートベルトを切断できる脱出支援ツールを開発しました。
 ガラス破碎機能、シートベルト切断機能などの試験方法と性能を規格として定めることで、客観的に性能が示せるようになり、カーメーカーの純正品採用をはじめとした新規取引が拡大、販売額がJIS制定前と比較して3倍に増加する結果となりました。現在はさらなる増産体制を構築し、順調な事業展開を行っています。

point

ガラス破碎力が弱い自動車用脱出支援ツールが市場に安価で多く出回っていたが、JIS化及びワイピーシステムによる営業活動の結果、既に流通している粗悪品等が排除され、ユーザーの安心・安全を確保。



産業標準化事業表彰式